

ときわ会グループ

40周年記念誌

ありがとう40周年～繋ごう未来の向こうへ～



1982-2022

Tokiwakai Group 40th Anniversary Magazine

40 years TOKIWAKAI GROUP since 1982

1982年3月20日、看護師5名、事務職2名、看護学生5名他、計19名のスタッフで「いわき泌尿器科」が開院しました。これまで「東日本大震災」や「新型コロナウイルス感染症」など、未曾有の災害にも見舞われましたが、周囲の方の支えや職員達の尽力のお陰で40年という月日を歩むことができました。

ときわ会グループは、これからも「医療」「福祉・介護」「教育・保育」など、地域の皆様に充実のサービスを提供してまいります。

「ときわ会グループ」は 40周年を迎えました

TOKIWAKAI GROUP celebrated the 40th anniversary of its founding.

ありがとう40周年 ~繋ごう未来の向こうへ~

2022年3月20日を持ちまして、ときわ会はめでたく40周年を迎えることができました。ありがとうございます。40年を振り返りますと、いろいろなことがございました。瞼を閉じれば、頭の中を様々なことが駆け巡ります。40年の間、問題はたくさんありましたが、職員とともに一つひとつ解決してまいりました。

中でも「東日本大震災」時の水不足、これはときわ会40年の歴史の中でも一番大きな事件だったと言えるでしょう。透析患者さんの治療には水は必要不可欠ですが、地震直後から完全に断水となってしまいました。ですが、いわき市・警察・自衛隊の皆さんや、多くの関係者にお力添えをいただき、給水や透析患者さんの東京・千葉・新潟への避難などを実現することができました。この場をお借りして、改めて御礼申し上げます。

震災時、家族が被災している中で、苦しんでいる患者さんのためにと業務に当たってくれた職員が数多くいました。そういう職員がいたからこそ、震災という大きな苦難を乗り越えられたのだと考えます。職員の皆さんにも御礼申し上げます。

結びに、ときわ会は総勢19名の職員で始まりました。現在は規模が大きくなり、1,700名を擁しております。ときわ会がここまで成長できたのも、多くの方々のご協力と職員の皆さんへの努力があってのものです。これからも皆様のご多幸を祈念し、ご挨拶に替えていただきます。



ときわ会グループ会長
ときわ みちお
常盤 峻士

ときわ会グループ副会長
ときわ すぐる
常盤 傑

※2022年10月30日「ときわ会グループ創立40周年記念フェスティバル」挨拶より

40年前のいわき泌尿器科開業時、私は幼稚園に通っていた頃でした。当時、大きな病院の目と鼻の先の場所に開院し「1年で潰れるだろう」と囁かれながら、しばらく患者さんがいない状況が続いたと聞いております。それから多くの方々に支えられ、ときわ会は無事創業40年を迎えることができました。ありがとうございます。現在は1,700名を超える規模にまで成長し、今では微力ながらいわき市民の皆さんのがんばりの存在になれたかなと思っております。それも、地域の皆様、ときわ会に勤めてくださっている職員の皆様あってのことだと思っております。

本日は、ときわ会の創業40周年を記念するイベントの日です。職員のお子さんもたくさん集まってくれました。今日、来てくれた子達が、今日の楽しい思い出を持ち続け、10年後や20年後に一緒に働く仲間になってくれたら嬉しいですよね。私はこういった関係性を10年後も50年後も続けていきたいと考えています。

献身的な自己犠牲の精神はとても素晴らしいです。ただ、自分の家族や恋人、自分の大切な人を幸せにできない人が、どうして患者さんや利用者さんのためにも、私は職員の皆さんのが大切な人を安心して幸せにできるような環境を作りたいと考えています。ときわ会が、皆さんの幸せを支える場所となるよう、これからも尽力してまいります。

TOKIWAKAI GROUP Growth

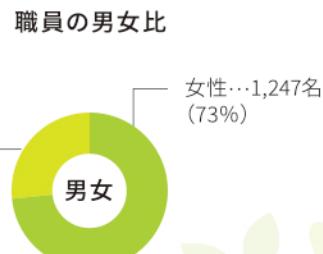
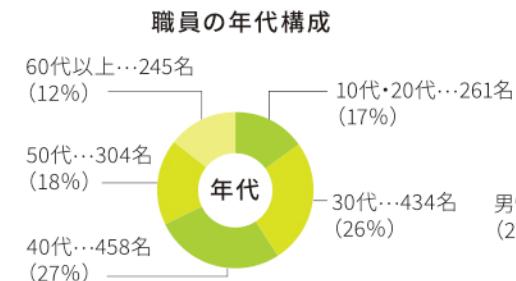
● ときわ会グループの成長



理念

基本方針

- 一、最先端・最高の腎泌尿器診療を核に、医療・福祉・教育を提供します
- 二、事業を通じて、地域社会の発展に貢献します
- 三、職員とその家族を大切にします



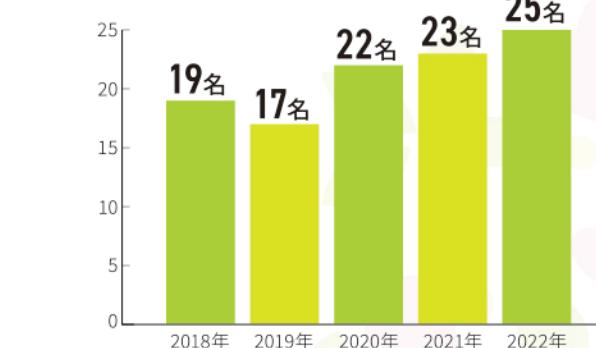
**グループ職員数
1702名**

「ときわ会」の設立当初は、看護学生を含め19名だった職員数も、現在では1,700名を超える数となりました（※非常勤医師数を含む）

40年前、総勢19名の職員で歩みを始めた「ときわ会」。様々な出来事を経験し、多くの方々の協力を得て、現在は約1,700名もの職員を有する組織となりました。これからも地域の皆様を支えられるよう、職員一丸となって医療を始めとする各種サービスの提供に努めてまいります。

2018～2022年の
新卒採用者数
106名

毎年、新卒者の採用を積極的におこなっています。ベテラン・中堅だけでなく、フレッシュな若手も多数在籍しています。



2018～2022年の
既卒採用者数
684名

ときわ会グループでは、積極的な既卒採用をおこなっています。経験者の皆さんのが培った実力を存分に発揮していただけます。



職員数
19名
1982年「ときわ会」
スタート

法人数
8 法人



Start with a total of 19 people. → 40 years later, the number of the staff increased to 1,702 → TOKIWAKAI GROUP will continue to grow.



お子さんを
ときわ会の施設に
預けている職員の数
189名

雇用形態の割合

雇用形態	人数	割合
正職員	1,268名	(74%)
パート	434名	(26%)

福利厚生の一環として様々な「子育て支援」の取り組みをおこなっています。保育園が2施設、児童クラブが2施設、中学生や高校生を対象とする進学塾などもあります。



病院やクリニックといった医療機関をはじめ、特別養護老人ホームや介護老人保健施設、幼稚園・保育園など様々な施設を運営しています。また、福島県の他、宮城県・茨城県・東京都にもグループ施設を有しています。



ときわ会グループは、腎・泌尿器や人工透析治療の分野を主としておりますが、それ以外にも外科・乳腺外科・血液内科・婦人科など、様々な診療科を開設しています。

医療機関の
診療科目
22 科目

※2022年12月現在の数字となります。予めご了承ください。

TOKIWAKAI GROUP Commitment

● ときわ会グループの成すべきこと

地域に求められる役割を全うする



ときわ会は人工透析・泌尿器科を中心とした様々な診療をおこなう医療グループです



- 01 東北地方でも有数の治療実績を誇る腎・透析医療**
いわき市・北茨城市の人工透析患者約1,200名のうち、1,000名弱の治療をおこなっています(※2022年12月現在)
- 全自動透析システム及びオンラインHDF(I-HDF)を積極的に導入。
 - バスキュラーアクセスセンター(常磐病院)とグループ施設のスムーズな連携。
 - 災害における、いわき市の透析治療を支援。
(地下水膜ろ過システム、非常用電源設備の導入、MCA無線の運用など)
 - 慢性腎臓病(CKD)外来の開設。外来透析患者様の無料送迎。

- 02 生体腎移植手術やロボット支援手術などの先端医療を提供**
地方都市でも国内最先端の腎移植手術・がん治療を受けられる施設を目指す
- 泌尿器科領域において年間約3,000件の手術実績
(2020年/3,033件、2021年/3,024件、2022年/2,935件)
 - 東京女子医大 泌尿器科などの経験豊富な医療スタッフと連携した生体腎移植手術を実施(2022年12月現在、計32件の手術実績)
 - 2012年8月、福島県で初となる手術支援ロボット「ダヴィンチシステム」を導入(2022年12月現在、計1,241件超の手術実績)
 - 女性医師による女性のための「女性泌尿器科外来」を開設。

- 03 福島県浜通り地区における透析医療の支援**
医療過疎が進む中、各自治体と透析を主とする医療協定を締結
- 2018年8月27日、「公益財団法人ときわ会」「医療法人社団ときわ会」と南相馬市との間で透析医療に関する技術指導や人材派遣についての協定を締結。
 - 2019年10月1日、「公益財団法人ときわ会」「医療法人社団茶畑会」による、透析医療連携を主とする地域医療連携推進法人「ふくしま浜通り・メディカル・アソシエーション」を設立。
 - 2022年3月、「ときわ会グループ」と広野町との間で「地域包括ケアシステム」に関する協定を締結。

ときわ会グループは、地域の皆様へ「医療」「福祉・介護」「教育・保育」など、各種サービスを提供するとともに、それらを支える職員とその家族が安心して働ける体制作りに注力しています。「一山一家」の思いのもと、地域の皆様も職員も、日々笑顔で過ごせるよう様々な取り組みをおこなっています。

働く職員を支援する取り組み

職員が安心して働くことができる環境を築くため様々な職員支援を実施



- 01 保育園や児童クラブ、塾などを設置し**
職員の子育て環境をサポート

0～2才の乳幼児を預かる「ゆしまや保育園」、1才～5才の幼児を預かる「ゆしまや第二保育園」。小学生の放課後を見守る「ときわ児童クラブ」「長倉小ときわ児童クラブ」。中学生・高校生の学力支援をおこなう「ときわ塾」など、働きながら子育てができる取り組みを実施。



- 02 キャリアアップ支援など**
充実した福利厚生

ときわ会グループでは、入職後にキャリアアップを図りたい職員のために、独自の奨学金制度を設けています。その他、育児休業・短時間勤務・看護休暇・子ども手当など、各種手当も充実。また、家族の転勤などにより勤務施設と住居が遠く離れてしまう場合などは、グループの別施設へ転勤も可能です。



- 03 結婚や出産などで現場を離れてしまった看護師のための**
復職支援センターを開設

結婚や出産などで一度現場を離れてしまった看護師の現場復帰を支援するために、ときわ会では「潜在看護職復職支援センター」を開設しています。当センターは、ときわ会職員に限らず、どなたでも受講が可能な他、座学や実習など看護師としてのスキルを学び直すことができます。



- 04 その他、様々な職員支援制度で**
職員が安心して働ける環境をサポート

上記以外にも、キャリアアップを図りたい職員のための「奨学金制度」といった支援制度なども有り。また、日替わりの昼食が食べられる職員食堂やお弁当の提供、かけ流しの温泉に入浴できる職員用浴室(※常磐病院)などのサポートもおこなっています。



ときわ会グループ40年のあゆみ①

TOKIWAKAI GROUP 1982-2022

History of 40 years

年号	ときわ会グループのあゆみ	社会の動き
昭和57年(1982年)3月	●「いわき泌尿器科」開院。常盤峻士院長(当時)を中心とする19名のスタッフにより、入院病床19床、透析ベッド30床でスタート。	3月 500円硬貨発行。 6月 東北新幹線開業。 12月 日本電信電話公社より、カード式公衆電話、テレホンカードが発売。
昭和61年(1986年)7月	●「泉中央クリニック」開院。	7月 富士写真フィルムが世界初のレンズ付きフィルムカメラ「写ルンです」を発売。
平成元年(1989年)11月	●医療法人社団ときわ会発足。	4月 消費税法施行。 6月 歌手・美空ひばりが死去。
平成8年(1996年)3月	●「介護老人保健施設 小名浜ときわ苑」開設。	9月 ロサンゼルス・ドジャースの野茂英雄投手が日本人初となるメジャーリーグでのノーヒットノーランを達成。
平成9年(1997年)10月	●いわき泌尿器科で、診療所としては全国2例目の腎移植に成功。	
平成11年(1998年)1月	●「富岡クリニック」「北茨城中央クリニック」開院。	1月 加入者急増に対応して、携帯電話・PHSの番号が11桁に。
平成17年(2005年)8月	●「余丁町クリニック」開院。	3月 愛・地球博(愛知万博)開催。9月までの期間中2,200万人を超える来場者が訪れる。
平成19年(2007年)10月	●「財団法人竹林病院」がときわ会グループに加入。	7月 参議院議員選挙で連立与党敗北、自民党37議席・民主党60議席。
平成20年(2008年)5月 12月	●「訪問看護ステーション きゅあ」開設。 ●「いわき泌尿器科」が入院病床を22床に増やし「いわき泌尿器科病院」として開院。	1月 16歳3か月の石川遼選手、史上最年少でプロゴルファーに。
平成21年(2009年)4月	●「学校法人志向学園金谷幼稚園」がときわ会グループに加入。	9月 民主党政権がスタート。鳩山由紀夫内閣が組閣される。
平成22年(2010年)4月 8月	●いわき市立常磐病院を移譲され、「財団法人ときわ会常磐病院」開院。 ●竹林病院から「竹林貞吉記念クリニック」へ名称変更。 ●「介護老人保健施設 榛葉ときわ苑」開苑。	6月 F I F Aワールドカップ南アフリカ大会開催。日本はベスト16入りを果たす。



1 1982年3月20日の「いわき泌尿器科」開院当時に配布した「開院案内はがき」。住所が区画整理前の「内郷下馬場」の表記となっている。

2 1986年「泉中央クリニック」開院。2017年の閉院まで、いわき市南部エリアの透析患者さんの治療を中心に診療をおこなっていた。現在は、その建物を一部改修し「ゆしまや第二保育園」を運営。

3 1997年10月23日発行の夕刊「いわき民報」。いわき泌尿器科で行われた生体腎移植に関する記者会見の記事を掲載。当時、ベッド数19床以下の有床診療所での移植手術は、全国で2例目、福島県内では初であった。

4 2007年より「財団法人竹林病院」がときわ会グループに加入。写真は、当時の忘年会の様子。

TOKIWAKAI GROUP 1982-2022

ときわ会グループ40年のあゆみ②

History of 40 years

年号	ときわ会グループのあゆみ	社会の動き
平成23年(2011年) 3月 4月	<ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災の影響により「竹林貞吉記念クリニック」「富岡クリニック」「楓葉ときわ苑」休院。 入院病床の変更により、「いわき泌尿器科病院」から「いわき泌尿器科」へと名称変更。 	3月 東日本大震災が発生。大津波などの影響により、死者・行方不明者は約2万人に。
平成25年(2013年) 3月 11月	<ul style="list-style-type: none"> いわき市内郷に「介護老人保健施設 仮設楓葉ときわ苑」開設。 「サービス付き高齢者向け住宅Well」「デイサービスセンターピナス」開設。 	4月 NHK連続テレビ小説『あまちゃん』放送開始(～9月28日)。
平成26年(2014年) 4月 8月 11月 12月	<ul style="list-style-type: none"> 学校法人志向学園 金谷幼稚園が「かなや幼稚園」に名称変更。 「財団法人ときわ会」から「公益財団法人ときわ会」へと法人名称を変更。 社会福祉法人光美会「デイサービスセンター 人生の里」、「人生の里 居宅介護支援事業所」がときわ会グループに加入。 「富岡町高齢者等サポートセンターいづみ(富岡町運営委託事業)」開所。 「福祉用具貸与事業所 Needs」開設。 	3月 『森田一義アワー 笑っていいとも!』放送終了。放送期間31年半、放送回数8,054回の歴史に幕を下ろす。
平成27年(2015年) 7月	「ゆしまや保育園」開園。	10月 「マイナンバー制度」実施に向けた法律が施行。
平成28年(2016年) 4月 10月	<ul style="list-style-type: none"> 「日東病院」を事業継承し、医療法人社団ときわ会「日東病院」開院。 公益財団法人ときわ会「先端医学研究センターRIIM(Research Institute of Innovative Medicine)」開設。 「竹林貞吉記念クリニック」が診療再開。 	1月 スパリゾートハワイアンズ(旧常磐ハワイアンセンター)開業50周年を迎える。
平成29年(2017年) 4月	「富岡クリニック」がいわき市小名浜に移転し診療再開。	2月 カルロス・ゴーンが日産自動車の社長兼CEOを退任。
令和元年(2019年) 9月 10月	<ul style="list-style-type: none"> 公益財団法人ときわ会及び医療法人社団ときわ会が医療法人翔洋会の事業を継承。 公益財団法人ときわ会に「磐城中央病院」「小名浜中央病院」が加わる。また、医療法人社団ときわ会に「介護老人保健施設ヘルスケアホームいわき」「グループホーム泉なごみの家」「訪問介護 泉なごみの家」「小規模多機能型居宅介護 いこいの宿」「サービス付き高齢者向け住宅 ケアレジデンス小名浜」「デイサービスセンター薬師前」「訪問介護 薬師前」「いわき七浜ケアプランサービス」が加わる。 「ゆしまや第二保育園」開園。 「公益財団法人ときわ会」と「医療法人社団 茶畑会」による地域医療連携推進法人「ふくしま浜通り・メディカル・ソーシエーション」設立。 	9月 ラグビーワールドカップ2019が日本で開幕。 日本代表が1次リーグを全勝し、初となる決勝トーナメント(ベスト8)へ進出。
令和2年(2020年) 7月	「小名浜中央病院」から「小名浜中央クリニック」へ名称変更。	1月 日本で初めて新型コロナウイルス感染症の感染者を確認。
令和3年(2021年) 4月 11月	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉法人光美会が「広野町特別養護老人ホーム 花ぶさ苑」「特別養護老人ホーム桜の園」「トータルサポートセンターとみおか」の指定管理事業者となる。 「日東病院」がリニューアルオープン。 	7月 東京オリンピック、パラリンピック開催。
令和4年(2022年) 3月 4月	<ul style="list-style-type: none"> 「特別養護老人ホーム桜の園」がオープン。 「トータルサポートセンターとみおか」がオープン。 これに伴い、「共生サポートセンター さくらの郷」がグランドオープン。 「長倉小ときわ児童クラブ」が開所。 	10月 東京ヤクルトスワローズ・村上宗隆内野手が、シーズン本塁打記録歴代単独2位・日本人選手では歴代単独トップの56本を記録。



40th Anniversary Project

● 40周年事業の取り組み

ときわ会グループ40周年事業で、記念ロゴの作成やスタンプラリーの実施、記念品配布など、さまざまな取り組みをおこないました。

01 記念ロゴ

ときわ会グループ40周年記念事業の特別ロゴマークを職員とその家族から募集。合計50点もの作品の応募がありました。それぞれ「未就学児の部」「小学生の部」、「中学生以上の一般の部」と「職員の部」の4部門に分け、それぞれ実行委員の投票により各部門の優秀賞を選出しました。



●応募作品の中から各部門ごとに一部作品をご紹介します。その他の作品はHPよりご確認いただけます。

未就学児の部：応募総数11点



小学生の部：応募総数20点



一般の部：応募総数7点



職員の部：応募総数12点



Anniversary logo

02 ときわ会グループ23施設をめぐる40周年記念スタンプラリー Stamp collecting

40周年を迎えるときわ会グループ職員およびその家族が楽しめるイベントの一つとしてスタンプラリーを下記の内容でおこないました。

- ①各事業所に会長または副会長の等身大パネルを設置。
- ②職員が各事業所を訪ね、等身大パネルと共に記念写真を撮る。
- ③パネル設置事業所の職員から、スタンプ代わりのシールをもらい台紙に貼る。

期間:2022年8月12日(金)～9月25日(日)

パネル設置事業所:常磐病院、磐城中央病院、いわき泌尿器科、竹林貞吉記念クリニック、小名浜中央クリニック、ゆしまや保育園、ゆしまや第二保育園、日東病院、富岡クリニック、北茨城中央クリニック、小名浜ときわ苑、仮設檜葉ときわ苑、デイサービスセンタールピナス、ケアレジデンス小名浜、グループホーム泉なごみの家、デイサービスセンター人生の里、サポートセンターいずみ、広野町特別養護老人ホーム花ぶさ苑、特別養護老人ホーム桜の園、かなや幼稚園、福祉用具貸与事業所Needs、Re-Birthいわき本店

エントリー総数:64件

コンプリート賞:16名

そのほかの賞:ハーフラリー賞、虹を掛けま賞、遠くまで行ったで賞、医療系見学賞、介護系巡回賞、子ども好きで賞、お客様になりま賞、聖地巡礼したで賞



事業所によってポーズが異なる会長と副会長のパネル



パネルと撮影するゆしまや保育園の子どもたち



パネル横に置かれた案内看板



職員一人ひとりに配布されたスタンプラリーパンフ

03 記念品

ときわ会グループ40周年を記念し、アイススプーン2本セットが全職員にノベルティとして配られました。また、40周年記念スタンプラリーに参加した方全員に、40周年記念ロゴがデザインされたタンブラーがプレゼントされました。



スタンプラリー参加者に贈られたタンブラー



40周年記念品のアイススプーン



胸元のデザイン



カラーは白と黒の2色

Souvenir

40周年記念ロゴが背面にデザインされたTシャツが、40周年記念イベントスタッフと当日のボランティアスタッフに配されました。カラーは白と黒から選ぶことができ、各々好きなカラーを着用しました。

40th Anniversary Festival

● 40周年記念フェスティバル

2022年10月30日(日)、いわきFCパークにて、「ときわ会グループ40周年記念フェスティバル」を開催しました。当日は、職員343名、職員家族565名(こども313名)の合計908名が参加。各エリアでは様々な催しがおこなわれました。

01 グランドセレモニー

13:00よりメインステージにて、本フェスティバルのメインイベントである「グランドセレモニー」を開催。ときわ会グループ創設当時から勤務する方々の表彰や、本イベントのロゴを作成してくれた方の中から優秀賞に選ばれた4名の方々の表彰、職員全員にプレゼントする記念ノベルティグッズの発表などをおこないました。
また、サプライズとして常盤峻士会長と、会長および職員を陰から支えてくださっている裕子奥様への花束贈呈をおこないました。



02 メインステージ

10:30~10:35 オープニング
10:35~11:05 いわき湯本高校吹奏楽部
11:15~11:45 おしりたんていなぞときショー
11:55~12:25 Toshie ライブ
12:25~12:55 フラ&タヒチアンダンスショー（アケリ ホアロハ）
13:00~13:50 グランドセレモニー 会長挨拶・副会長挨拶・永年勤続表彰
13:50~14:10 アグリン★ファイブいわき農産物PR
14:10~14:40 ものまね芸人「ふじき イエイ! イエイ!」お笑いライブ
14:40~15:10 門馬綾子 ライブ
15:20~15:50 スタンプラリー当選発表
15:50~16:50 大抽選会
16:50~17:00 閉会宣言



03 キッズエリア

- ふわふわパノラマ牛太郎
- サッカーナイン
- ストラックアウト
- 輪投げ
- SDGsブース
- めだかブース
- お菓子づくり
- アグリン☆ファイブ撮影会 時間 14:10~14:40 キャラ ねぎぴょん、なしポチ
- おしりたんてい撮影会 時間 14:40~15:10



04 パネル展示

「パネル展示コーナー」では、各施設が作成した記念動画の映像や、ときわ会グループ40年の歩みをパネルにまとめ、懐かしい写真満載の年表などを展示しました。



Panel display

05 フットサル&イベントエリア

フットサルエリアでは、サッカー・フットサル好きの子どもたちが集まり、ドリブルやシュートなど華麗なテクニックを見せていました。午後からは、フットサル元日本代表の滝田学選手と一緒にゲームを楽しみました。
またイベントエリアでは、イベント会場内に設けられたチェックポイントを回る「SDGs クイズラリー」や、柔らかなスポンジの剣を持って戦う「スポーツチャンバラ」などをおこないました。



Futsal & Event area

06 大抽選会

15:20よりスタンプラリー参加者を対象とした当選発表が行われました。エントリー総数は64件。全施設を制覇したコンプリート賞は、なんと16名もいました！
15:50からは大抽選会がおこなわれました。景品総数は100個を超え、ワクワクしながら自分の抽選番号が呼ばれるの待ちました。



Lottery

07 キッチンカーエリア

イベント当日は7台のキッチンカーが出店しました。

- ハラル食堂→仙台和牛カレー
- キューバサンド→ホットサンド、タコス類
- アロハスタイル→ケバブ、ドリンク
- Porcoパルコ→豚丼
- ジェラテリア パルコ→ジェラート類
- ロマンドーロール→クレープ
- ヘナストロベリーランド→ジェラート類、いちごドリンク、いちごワッフル系



Kitchen car area



ときわ会グループ SDGs 宣言

ときわ会グループは「一山一家～地域の皆様と共に生きる～」の理念のもと、医療・福祉・介護、教育・保育を通して地域住民の皆様の一人ひとりの心身の健康を支え、健康で活力のある持続可能な「地域共生社会」の構築・発展を目指し職員一丸となってSDGsに取り組みます。

ときわ会グループ「SDGs」の主な取り組み



国連目標

あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する

ときわ会 指針

すべての地域住民が安心した生活を送れるよう、グループ一丸となり地域に根ざした質の高い医療や福祉を展開します。そして人々の健康と尊厳を守ります。

ときわ会の取り組み

- ・医療・介護・教育事業の展開、継続
- ・地域住民の健康増進に向けた活動



健康診断事業をはじめ、透析施設も多く展開し地域の皆様の安心・安全を守ります。



健康増進を図るという観点から、フィットネスクラブ・Re-Birthの経営も行っております。



国連目標

すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する

ときわ会 指針

職員が一流の専門職としての誇りを持って働いていけるよう、知識や技術力向上といった自己研鑽の場を実現します。さらに、教育保育を通して、未来を担う子どもたちに世界に触れる学びの場を提供します。

ときわ会の取り組み

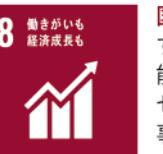
- ・教育・保育事業の展開、継続
- ・教育を受けられる場の提供



教育・保育事業として、いわき市内に幼稚園1施設、保育園を2施設展開しております。



学童クラブや塾を運営。0歳～18歳までの子どもたちに対し、教育を受けられる場を設けています。



国連目標

すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）を推進する

ときわ会 指針

職員が働きやすい職場環境づくりを目指します。働く人の権利を守り、地域から雇用を生み、誰もが安心して働ける組織作りを目指します。

ときわ会の取り組み

- ・子育て支援体制の充実
- ・同一労働同一賃金の達成
- ・初期臨床研修医の受け入れ（基幹型）



共働きの職員も安心して働けるよう、お子様をお預かりする施設を複数保有しています。



「臨床研修センター」を有しております。連携して初期臨床研修医の育成を行っております。



国連目標

都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靭かつ持続可能にする

ときわ会 指針

地域の課題解決こそが次の世界に繋がるものと信じ、東日本大震災の影響が今なお残る浜通りを中心に、医療・介護・教育という基盤を担い、地域づくりに取り組みます。

ときわ会の取り組み

- ・震災の影響を受けた地域での事業運営
- ・当該地域での雇用の提供と斡旋



広野町や富岡町の事業所を指定管理者として運営し、住民の方に医療・介護を提供しています。



富岡クリニックや、楓葉ときわ苑等、避難指示区域の事業所をいわき市に移設しました。



国連目標

気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る

ときわ会 指針

医療・介護・教育を支えるためのインフラを整えていく上で、カーボンニュートラルの視点を忘れません。また、東日本大震災の経験を活かし、災害が発生したとしてもそれを乗り越えられる力を蓄えます。

ときわ会の取り組み

- ・クールビズの推奨
- ・避難所の提供・設置
- ・災害対策チームの設置及び対応



クールビズの一環として、「フラシティいわき」の象徴であるアロハシャツを着用しています。



東日本大震災の経験を忘れず、避難訓練を各施設で実施しております。



国連目標

持続可能な開発に向けてグローバル・パートナーシップを活性化する

ときわ会 指針

地域住民や関係機関と、事業基盤の多様さを強みとした連携の推進に努め、地域、社会の課題解決に貢献します。

ときわ会の取り組み

- ・自治体との協定締結、行政との連携
- ・地域医療連携推進法人設立
- ・指定管理の受諾



浜通り地区の透析技術の質の向上を目指す連携モデルとして、地域医療連携推進法人を設立。



広野町の(花ぶさ苑)、富岡町の(さくらの郷)の指定管理を受諾しております。

持続可能な開発目標「SDGs」とは?

SDGsとは

SDGs(Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)は、「誰一人取り残さない(leave no one behind)」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標です。2015年の国連サミットにおいて全ての加盟国が合意した「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中で掲げられました。2030年を達成年限とし、17のゴールと169のターゲットから構成されています。



SDGsの特徴

前身のMDGs(Millennium Development Goals:ミレニアム開発目標)は主として開発途上国向けの目標でしたが、SDGsは、先進国も含め、全ての国が取り組むべき普遍的(ユニバーサル)な目標となっています。しかしながら、これらの目標は、各国政府による取り組みだけでは達成が困難です。企業や地方自治体、アカデミアや市民社会、そして一人ひとりに至るまで、すべてのひとの行動が求められている点がSDGsの大きな特徴です。まさにSDGs達成の力は、一人ひとりの行動に委ねられているのです。

人間の安全保障との関連性

我が国は脆弱な立場にある一人ひとりに焦点を当てる「人間の安全保障」の考え方を国際社会で長年主導してきました。「誰一人取り残さない」というSDGsの理念は、こうした考え方とも一致するものです。

SDGs達成に向けて

2019年9月に開催された「SDGsサミット」で、グテレス国連事務総長は、「取り組みは進展したが、達成状況には偏りや遅れがあり、あるべき姿からはほど遠く、今、取り組みを拡大・加速しなければならない。2030年までをSDGs達成に向けた『行動の10年』とする必要がある」とSDGsの進捗に危機感を表明しました。

2020年、新型コロナウイルス感染症が瞬く間に地球規模で拡大したことからも明らかのように、グローバル化が進んだ現代においては、国境を越えて影響を及ぼす課題に、より一層、国際社会が団結して取り組む必要があります。SDGs達成に向けた道のりは決して明るいものではありません。だからこそ、「行動の10年」に突入した今、私たち一人ひとりにできることをしっかりとと考え、一步踏み出す姿勢が求められています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

10 years from now Our Goal



10年後の未来

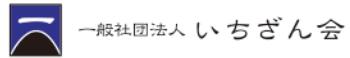
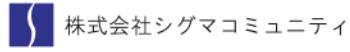


各施設の若手職員を中心に、自分が目指す10年後の未来や目標について書いてもらいました。

10年後、ときわ会グループは50周年を迎えます。その頃、今回彼らが書いた目標が叶っていると信じています。



TOKIWAKAI GROUP



地域医療連携推進法人
ふくしま浜通り・メディカル・アソシエーション

ときわ会グループ40周年記念事業ホームページ

